

国 語

注 意

1. 問題は全部で23ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7	<input type="radio"/> 8	<input type="radio"/> 9	<input type="radio"/> 0
---	----------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

* プロットは探偵小説というジャンルがこれほど遅ればせに登場してきた根拠を、犯罪捜査が科学的になった時期と結びつけて説明する。複数の証人と、証明の女王レギナ・プロバトリスといわれた自白とがあれば充分であり、しかも証人の欠如は拷問で補えばよかつた時代が終わって、情況証拠が捜査にとって不可欠になったのは、ヨーロッパでもようやく十八世紀中葉のことなのである。もちろん、情況証拠がかえって冤罪をつくり出すという危険性はあるにせよ、それでも拷問よりは文明化された手続が、これで可能になったのだ。¹ 情況証拠調べという手続は、暗示をふくむ痕跡を追う作業として、探偵小説の構成上の原理にかわるのである。それゆえ、プロットにとって、探偵小説は、《どこか怪しいぞ、というところから始まる》のだ。この怪しい点を、証言や自白からではなく、証拠の追跡によって、解明しなければならぬ。探偵小説が読者を惹きつけ引き込む手口は、プロットによれば、つぎの三つである。——第一に、謎解きの緊張。第二に、思いがけないものが暴露され、仮面を剥がれるということ。そして第三に、この暴露によって、物語が始まる以前の語られなかつたことから、物語の歴史が明らかにされること。プロットは、わけてもこの第三の点²が、探偵小説のもつとも本質的な特徴である³と考える。

他の小説スタイルにおいて、出来事は、物語の進行のなかで、読者の目のまえで演じられる。⁴ ラスコリーニコフは、じつに叙事的かつ可視的に、金貸しの老婆を打ち殺す。この行為は読者の目から隠されず、その一挙手一投足が明示される。だが、それは逆に探偵小説では、たとえ物語の進行のなかで新たな殺人が起こることがあつても、それは、そもそも物語以前の闇と密接に関連しているのであり、この闇を増大させ、解決を遅らせるのである。プロットは、この事前の闇を、人類の歴史の原初にある闇と関連させ、この世界秩序がそもそも隠された罪によって規定された善悪の尺度に支配されていることを暗示する。そのさいかれが、知らずに父を殺し母と結婚するオイデプスの闇や、捨て子であるフィールディングの『トム・ジョーンズ』の主人公の闇を引きあいに出しているのは、興味ぶかい。自分自身の素姓、自分自身の正体がわからないということこそは、探偵小説の秘密のひとつの極限的なありかたにほかならないからだ。

《どこか怪しいぞ、というところから始まる》とき、探偵小説は、遠い彼方に秘められた世界を追い求めるのとは、正反対の道をたどる。成立の当初から大都市の生活環境と不可分だった探偵小説は、日常のもっとも見なれた生活のなかに、怪しいものの痕跡をみとめるのである。遠くはなれた秘められた領域ではなく、もっとも近い現実のなかに、不可視の謎と犯罪がひそんでいるのだ。犯人は、日ごろ目のまえに姿を見せているごく見なれた人間たちのなかにいる。その姿をいつも見ていながら、それが殺人者であることを知らないのだ。ちょうど、都市の雑踏のなかで行きかうごく普通の顔に、犯罪者がひそんでいることを知らないように。疑いはじめれば、登場する人物のすべてが犯人である条件をそなえている。他人を疑っている自分自身もまた、犯人でありえないということはない。

《どこか怪しいぞ》という疑いは、それゆえ、痕跡を追う探偵自身をも対象から除外することはない。それどころか、もっとも怪しいもの、もっとも不確かで未知であるもの、それは、現在において、依然として自分自身にもっとも近い現実、とりわけ自分自身なのだ。エルンスト・ブロッホは、「探偵小説の哲学的考察」を、このもっとも近い闇からのふたつの方向での脱出の道を示唆することによって閉じている。ひとつは、原因へと向かう道、つまり前史にひそむ謎をたずねて暴露する探偵小説の道である。そしてもうひとつは、結果へと向かう道、すなわち何か新しいものの形成を未来にたずねる芸術家小説の道である。そのいずれもが、どこか怪しいぞ、というところから始まる、とブロッホは言うのだ。たしかに、芸術家小説は、自己自身を探索しつづける人間が市民社会のなかで見出した最後の逃げ道だった。それが芸術家小説ではなく芸術家小説とならざるをえないように、もっとも近いものなかに遠い謎をさぐらねばならない人間の物語は、謎解きの過程そのものに主眼をおく《推理小説》ではなく、その過程を迷いつつたどる主人公にそくして《探偵小説》と呼ばれるにふさわしいのである。

謎や秘密とかかわることによってしか現実世界とかかわることができないわれわれを、探偵小説の主人公たちの一方の側、つまり探偵は代表している。もしも直視すれば不可視のものによって浸透されつくしていることに気づかざるをえないこの現実を、かれは、たまたま与えられた痕跡を手がかりにして、切り裂いていく。もう一方の側には、解くべき謎を探偵に提起する人間がいる。犯人と探偵は、月次な言いかたをすれば、共犯者であり、ともに相手を必要としている。だが、ここでは、通常の観

念とは逆に、犯罪者のほうが **A** であり、探偵は **B** なのだ。粉碎されるべき謎を探偵につきつける犯人は、現実が提供するあらゆる素材をつかつて、芸術作品としての謎を創造する。

探偵小説論の多くが、トリックの分類表や探偵の癖の標本箱であるのは、奇妙なことだ。探偵と犯人との対決の場である探偵小説の世界が、この両者の関係のありかたそのものを考えるところから見なおされるといふことは、めったにない。探偵小説の世界こそは、じつは秩序によって支配しようとする意志と、別の秩序を形成しようとする試行との、対決の場なのである。犯罪が、かならず革命的であり、権力秩序への叛逆である、というのではない。科学的に裏付けられた証拠や法的手続なるものによつて犯人に迫る探偵と、かれよりもさきに謎を創造し、この謎の範囲内に探偵を呪縛しながら、しかも追跡者にすぎない探偵に敗れる犯人——という関係の構造が、問題なのである。倒叙形式の探偵小説——つまりプロットが死体発見の前に描かれぬまま隠されているとした犯行そのものが、事前にはなく作品そのものなかでまず描写され、あらかじめこの前史を知っている読者が、何も知らずに追跡を始めなければならない探偵の手なみを見物する、という構造の小説——では、犯人の敗北はとりわけ決定的となる。そこでは、犯人が犯行の手口を隠すやりかたが巧妙であればあるほど、初期の段階で探偵が頼りなければ頼れないほど、それはむしろ逆に探偵の犯人にたいする勝利を大きくする。すべてを知った神の視点に立つて事件解明の過程を眺める読者は、探偵とともに、あるいはむしろ探偵を出しぬいて謎をみずから解明する、という労苦さえ課せられずに、一部始終を見物する。⁸ 犯人は、ここでは、創造者ですらない。攻勢に出るのは探偵であり、犯人は探偵が仕掛けてくる罠や誘導質問や心理的拷問に、ひとつひとつ対処するだけで精一杯なのだ。倒叙形式の探偵小説は、芸術はしよせんは、かないこと、現実⁹は虚構の世界に勝つことを、探偵に証明させるのである。

ところが悪鬼のしわざのごとく見える犯罪の根源には、しばしば、その犯人でなければ⁹坐視したであろうようないつそう大きな犯罪や、その犯人でなければそれほど深く傷つくこともなかったであろうようなほんの小さな矛盾が、かくされている。これらの秘められた動機との出会いがかれらを犯罪者たらしめるにいたつたといふことは、かれらの人間的なゆたかさの証左にはほかならない。その犯罪を、解きがたい謎のかたちでなしとげたといふことは、¹⁰かれらのたぐいまれな創造力を物語っている。

(注)

*プロツホ^{II}エルンスト・プロツホ。ドイツの哲学者。

*ラスコーリニコフ^{II}ロシアの小説家ドストエフスキ^Iの代表作『罪と罰』の主人公。

*オイディプス^{II}ギリシア神話の英雄。実子の手で殺されると言われた父王により赤子のうちに捨てられるが、何も知らぬまま結局は父王を殺し母と結婚する。

*フィールディングの『トム・ジョーンズ』^{II}イギリスの小説家ヘンリー・フィールディングの代表作。主人公トムは捨て子として設定され放浪の旅に出る。

問一 傍線部I「情況証拠調べという手続きは探偵小説の構成上の原理にかわる」とはどういう意味か。その説明として最適な

ものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

- ① どこか怪しい証人といった暗示的な仕掛けは必要なくなったという意味。
- ② 情況証拠による科学的犯罪捜査が探偵小説の根幹になったという意味。
- ③ 拷問による自白など冤罪性のある解決は探偵小説に不要になったという意味。
- ④ 共同幻想的による暗示的なストーリーが探偵小説の主流になったという意味。
- ⑤ 情況証拠による謎解きの緊張感が作品の優劣を決するようになったという意味。

問一 傍線部2「第三の点が、探偵小説のもっとも本質的な特徴である」とあるが、その理由として最適なものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 2。

- ① 実は探偵自身が犯人だったという究極の謎を最後に暴露しなければならないから。
- ② 謎解きや暴露だけでなく、不可解な余韻が残らなければ創作とは言えないから。
- ③ 物語以前の犯人の素姓や出来事のみならずこそ探偵小説における秘密の極限だから。
- ④ 事件が起きた原因をラストの犯人の自白で締めくくることが最も劇的だから。
- ⑤ 時系列的展開では、やがて消去法的に犯人の正体がわかってしまうから。

問三 傍線部3「叙事的かつ可視的に」とあるが、その意味として最適なものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 3。

- ① 人物の心情を掘り下げカメラのような目線で、という意味。
- ② 明晰な語り口で事実の裏まで見通すように、という意味。
- ③ 人物描写は避けて視覚的記述を優先して、という意味。
- ④ 淡々たる記述でしかも事実そのままに、という意味。
- ⑤ 大らかな態度と微視的な視野によって、という意味。

問四 傍線部4「物語以前の闇」と同じ意味で用いられている語句を次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 4。

- ① 権力
- ② 素姓
- ③ 都市
- ④ 痕跡
- ⑤ 前史

問五 傍線部5「成立の当初から大都市の生活環境と不可分だった探偵小説」とあるが、その理由として最適なものを選択の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 5。

- ① 辺境の地では登場人物も事件の展開もバリエーションに乏しく創作しにくいから。
- ② 大都市の日常にこそ殺人者や犯罪者があつうの顔で雑踏に紛れているものだから。
- ③ 都市の生活は整然としており、それだけに事件の発生する必然性に満ちているから。
- ④ 人間の得体の知れなさはどこでも同じだが大都市の方が舞台として親しみやすいから。
- ⑤ 人口が密集しているほど事件の発端となる異常者の存在が確実に多いから。

問六 傍線部6「もつとも怪しいもの、とりわけ自分自身なのだ」とあるが、その説明として最適なものを選択の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 6。

- ① どれだけ情況証拠を集めてみても、探偵の心のなかには事件を完全に解決しえたかという不信感が必ず残るものだ、という事。
- ② 探偵小説読者には、実は探偵こそが犯人なのではないかという根本的な疑いから逃れることはできない宿命があるのだ、ということ。
- ③ あらゆる謎と解決へのストーリーを完璧に書き上げたとしても、作家は最後には創造主である自分が真犯人ではないのかと思ってしまう、ということ。
- ④ 探偵小説で作家が犯人を明かしたにせよ、それは他の文学の場合と同様、つまりはその作家の自分探しに他ならなかった、ということ。
- ⑤ 探偵小説で書かれてきたあらゆるパターンの作品も、けっきょくのところは事件の謎を解くだけにすぎない限界がある、ということ。

問七 傍線部7「芸術家小説の道」とあるが、その意味として最適なものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号

は 7。

- ① より芸術性の高い作品を心がけて探偵小説を書き続けること。
- ② 作家が芸術家としての自分自身を探求し続けること。
- ③ 現状維持の作家でなくつねに新しいものに挑戦し続けること。
- ④ 娯楽作家ではなく芸術家としての誇りをもって作品を書き続けること。
- ⑤ どこか怪しいぞ、という原点を忘れずに新作に意欲を燃やし続けること。

問八

A

に当てはまる最適な語句を次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 8。

① 消極的

② 確信犯

③ 片棒役

④ 被害者

⑤ 創造者

問九

B

に当てはまる最適な語句を次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 9。

① 達観者

② 被験者

③ 破壊者

④ 構築者

⑤ 決定者

問十 傍線部8「犯人は、ここでは、創造者ですらない」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **10**。

① 倒叙形式の探偵小説では事件や犯人の隠蔽の工夫や秘密などすべてわかっており、犯人は初めから探偵を呪縛する創造性さえあたえられていないということ。

② 探偵と犯人の共犯関係が成り立たないと、そもそも探偵小説の基盤である謎解き自体が無意味になり、真の創造者は読者に移行してしまうということ。

③ 全知の読者が確保されたところでは、犯行動機の解明という探偵による推理の出番すらなくなり、犯人はまったく希薄な存在になってしまうということ。

④ 初めから犯行解明のための情況証拠が登場人物たちの手にあるかぎり、どれだけ緻密な策略を立てても犯人は単なる操り人形でしかないということ。

⑤ 時系列にそったストーリー展開でなければ読者は混乱し、犯人の言動はもっぱらその混乱を生じさせないように固定化されてしまうということ。

問十一 傍線部9「坐視」の意味として最適なものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **11**。

① 一瞥

② 凝視

③ 傍観

④ 刮目

⑤ 披見

問十二 傍線部10「かれらのたくいまれな創造力」とあるが、その意味の説明として最適なもの、次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 12。

① 事件が探偵に解き明かされてゆく過程を、それが平凡な日常事であるかのように見せかけ、大事件のリアリティーを完成させる演技力のこと。

② 誰もが気にもとめないようなささいなことを犯行の動機とし、しかもその犯罪解明の糸口を巧みに隠蔽すべく策略を弄した犯人のみごとな手腕のこと。

③ 大胆な犯罪の動機が秘められたままで、誰にも気づかれることなく計画を遂行してしまう犯人の透徹した精神力のこと。

④ 動機がまったくつかめないような、しかも情況証拠などのあらゆる科学的捜査を排除する完全犯罪実現への周到な計画実行力のこと。

⑤ 探偵小説もしょせん推理小説であるのに、ただの謎解きで終わらせない芸術的読後感を読者にあたえる表現力のこと。

問十三 本文の趣旨として合致しないものを次の①～⑤より一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 13。

① 謎解き、暴露、物語の前史の解明が探偵小説には不可欠の要素である。

② 倒叙形式の探偵小説の場合には情況証拠を探偵が集めることに意味はない。

③ 探偵小説における物語以前の闇は人類の歴史の原初にある闇と関連している。

④ 大都市生活はもつとも近い現実であるがゆえに不可視の謎と闇をはらんでいる。

⑤ 犯人とはささいな事柄を動機に難解な謎に満ちた事件を作り上げる創造者である。

問十四 二重傍線部「月次」の読みを平仮名で記せ。解答用紙その(2)を使用。

二 次の文章は一九八三年に書かれたものである。これを読んで、後の問に答えよ。

今日では、よく売れるものは良いデザインであるとは必ずしも言えない。また、良いデザインは必ずしもよく売れるとは限らない。今日のデザイナーは、良いデザインを造るということを目当てにするだけでは事足らなく、よく売れそうなものをとということまで心掛けなければならない。即ち、良いデザインと、よく売れそうなものとの接点を見出さねばならない。今日の多くのデザイナーにとっては、良い物を造るというより、よく売れそうなものをデザインすることの方がより易いであろう。勿論良心的なデザイナーはその逆である。だが彼は前者に比べてより苦勞するであろう。

今日ではデザイナーはほとんど、商品売るためという目的のために狩り出されている。従って人の購買欲を唆るような派手なもの、目につくもの、流行を追ったもの等表面上のお化粧にはかりウキミをやつ¹しているわけである。ほとんどのデザイナーは流行におもねらされている。しかし、本当のデザインは A ところにあるのだ。

商品の回転を早めるために、人々の浪費を促す。経済成長の手段を選ばない濁流の真只中に泳がせられている今日の多くのデザイナーは、全く悲劇的でさえある。浪費によって捨てるゴミは、今日急激に増えつつある。しかも高分子化学や合金術等の発達によつて、半永久的に残る²ゴミの量はかなり多いのである。

今日のデザインが後世にまで恥²を曝して残ることは言うまでもない。人間の造つたものは、終局的には土に戻してやらねばならぬ。それが自然の調和を保つ上での循環作用の大法則なのだ。

³ どうやら人間は物を造ることより、物を捨てることの方が、本当は苦手なようである。これからのデザインは、物を捨て去つた後のことまで考えねばならないだろう。今日のデザイナーは人類文化に役立っているとはお世辞にも言えない。機械時代になって、その製品に醜いものが多いということは、デザインというものがあるからだと言われても仕方がない。ほとんどのものがデザインされているにも拘わらず、そのほとんどが醜いとは、結果的にみて、今日ではデザインという職業がない方がよいかもしれないとまで考えられるのである。

もつとも、今日の機械時代においても、素晴らしいデザインが、僅かだが存在し、また生まれつつあることも事実である。この少数の素晴らしいデザインが、デザインの名誉を僅かながらも救ってくれているのだ。

もつともデザイナーがいなくても、各技術が有機的にうまく融合されている場合がある。これはアノニマス・デザイン⁴と言われている、大変美しいものである。野球用のバット、グローブ、化学実験用のフラスコ、ピーカー、或は人工衛星等。アノニマス・デザインは、今日の汚れたデザイナーが到底タッチ出来ないほど、素晴らしく神聖なものである。

民芸もアノニマス・デザインの一種である。アノニマス・デザインに比べて、デザインされているものがほとんど醜いとは、それを構成しているコンポーネントの融合に何か有機的でない不純の異物が混っているからである。

民芸のシン⁵オウに、人間生活の原点を窺い取ることが出来る。また、その純粹さに美の源泉を汲み取ることが出来る。人間性喪失の今日、民芸の暖かみのある人間性と、その始原的な純粹性に、今日の人々ははなはだしい共感を覚えると共に、過去に対する憧憬まで感じさせる。

しかし、民芸の美に対して感傷にばかり浸ることは許されない。我々はそのから将来に向って、何を学び取るかということが大切である。民芸は地域文化であり、民族の伝統によって徐々に凝結したものであるから、すこぶる純粹たり得た。この純粹さは美の根源であり、その美は、時代及び国境を越えた我々すべての人類が持ち得る普遍的な共通のものである。

プロダクト・デザインに係わる人は、手造りによるかつての民芸品に、庶民の用に供することからのみ、B

的に輝かしい美が生まれて来ているということに注目すべきである。手造りのものが美しいからとて、そのままそれを機械にのせて量産することは馬鹿げている。手造りと、機械生産は異なっている手段であるから、それによって表現されている美は自ずと異なっている。手工業は手造りの美しさを追求すべきで、プロダクト・デザインは機械生産の美しさを追求すべきである。但し、人間生活に係わりあるものから、美が生まれて来るといふことで、その美の因つて来るところは同じである。

民芸は地域文化、或は民族文化と言えようが、デザインは人類の文化である。民族の文化より人類の文化へと向うデザイン

は、各地域文化の交差・融合によつて、より広いユニットへ向わんとするエネルギー燃焼の過程にあり、いずれは統合された人類文化の **C** 性を確保するだろうが、今のところは非常に困難である。それは手工業時代から、機械時代へ移るに伴つての混乱であり、即ち近代化による種々の矛盾の勃興である。

先進国における近代化は、文化史上かつてない程の恥ずべき最低の醜悪さを曝け出している。近代化による同じような轍⁶を、開発途上国に踏ませんとしているが、一人人間の幸福とは何なのだろうか？

伝統は創造のためにある。伝統と創造を持たないデザインはあり得ない。伝統的な美の様相を、そのまま真似ようとしたり、また、その一部を今日のデザインに取り入れようとしたりすることは、その困つて生まれた必然性を無視することになる。

伝統の美は意識して出来るものではない。生まれるものである。伝統の美を意識して物を造るということは、時代、民族、地域環境、社会、素材等が構成する有機体全体の中より、自然に生まれ出た必然性を無視することになり、結局は伝統の美と尊厳を傷つけることになる。

伝統的な美を意識したい例は、いわゆるジャポニカ調という奴で、似て非なるわざとらしい嫌らしさがそこに窺われるのが常である。伝統を意識するということは、とかくすると似て非なるものに陥り易い。即ちエピソードの危険が伴うのである。

日本人が日本の土地で、日本の今日の技術と、材料を使つて、日本人の用途のために真摯にものを造れば、必然的に日本的な形態が出現することになる。この態度こそ日本の伝統の美を本当に継承することになるだろう。かつての強固な伝統美は、**7** 強固なゲメインシャフト的**8**社会より生まれたものである。

デザインの性格には、各デザイナーの個性が現れることは勿論だが、それよりもその製品が生まれた所のバックグラウンド(社会)の性格が遥かに強く反映されるものである。これは誰々のデザインというよりも、これはドイツのデザイン、イタリアのデザインと言つた方がより明瞭にその性格が出て来る。健全な物は健全な社会に宿る。

デザインは社会問題である。良い社会とは何か？それはゲメインシャフト的に結ばれている社会だと思ふ。お互いにゲメインシャフト的精神に結ばれていれば誤魔化したり、欺いたりするデザインは生まれて来ないだろう。社会問題を解決せねば、良い

デザインは生まれて来ない。

経済成長、商品回転の促進、浪費、以上に奉仕するデザインに対して、今や鉄槌が下されんとしている。それは地球に物資が限られているというのが現実となってきたからである。今までは地球の物資を出来るだけたくさん掘り起こして、物を野放図に、量的に生み出すということが経済成長であり、それが人類幸福につながると思われて来た。しかし富める地球は、今や貧しき地球へと変わりつつある。我々は限られた貴重な物資を、如何に大事に扱うかというところに来ている。特に浪費のための量的生産は最も戒むべきである。

機械生産は、量より質へと転換すべきである。勿論デザインも、安っぽい見せびらかしの媚よりも、本当に人間に役立つ質的なものへと意を注がねばならぬ。機械時代になって急激に人口が増えたのは、人間生活を支える物が、量的に増えたからと言われている。しかし、物を造る物資が、地球上で枯渇しつつある今日、これ以上に物を量産することは不可能である。

人口の制御、生産の制御等々、何事も今後は制御の時代となるだろう。勿論デザインも制御の問題が出て来るだろうが、制御問題は人間にとって最も頭の痛い、難しい問題となるだろう。

地球文化を生き長らえんには、人間は一体何を為すべきかという原点に戻って考えねばならぬ。デザイン問題も、今やデザインとは一体何なのかとの根源の問題に還るべき時期に来ている。

(『柳宗理 エッセイ』による)

(注)

*エピゴーネン＝思想、芸術上の追隨者、亜流のこと。

問一 傍線部「ウキミ」を漢字に直せ。解答用紙(その2)を使用。

問二 空欄 A には、どのような語が入るか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号

は 14。

- ① 流行を作る ② 流行を売る ③ 流行と遊ぶ ④ 流行と戦う ⑤ 流行を選ぶ

問三 傍線部 2「恥」とあるが何故か。その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

15。

- ① 素晴らしいデザインであっても、土に帰らないインスタリアル・デザインであるから。
② 手造りのデザインではなく、機械生産のプロダクト・デザインがほとんどであるから。
③ ほとんどのデザインは生活上の必要性より、よく売れることを重視しているから。
④ 今日のデザインは、伝統と真剣に向き合わず、その美を模倣しようとしていないから。
⑤ 地球の限られた物資を、不要なデザインのために浪費しているから。

問四 傍線部 3「どうやら人間は物を造ることより、物を捨てることの方が、本当は苦手のようである」とあるが、「本当は」とは

どういう意味か。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 16。

- ① 半永久的に残るゴミが多いのに、浪費によって捨てるゴミは増え続けていること。
② 機械時代になって、技術は発達したのに、ゴミを土に戻す方法がないこと。
③ 人口が減る一方であるのに、商品売るために量産化を続けること。
④ 量産化によって商品の回転は早いのに、売れ残った商品の始末を考えないこと。
⑤ 良いデザインは存在するのに、流行にだまされて捨てるべきものを判断できないこと。

問五 傍線部4「アノニマス・デザインと言われている、大変美しいものである」とあるが、なぜ美しいのか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **17**。

① 過去への純粋な憧憬から産み出されたデザインであるから。

② 複数のデザイナーが係わってコンポーネントを融合させたデザインであるから。

③ その用途のための必要性から、自ずと生まれたデザインであるから。

④ デザイナーの人間性と人間生活の原点を窺い取ることが出来るデザインであるから。

⑤ 機械時代に、高分子化学や合金術の発達によって生まれたデザインであるから。

問六 傍線部5「シンオウ」を漢字に直せ。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **18**。

① 心 奥

② 神 往

③ 深 奥

④ 震 央

⑤ 新 鶯

問七 空欄 **B** には、どのような語が入るか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号

は **19**。

① 純 粋

② 必 然

③ 圧 倒

④ 一 時

⑤ 共 通

問八 空欄 **C** には、どのような語が入るか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号

は **20**。

① 有 用

② 一 面

③ 一 般

④ 人 間

⑤ 純 粋

問九 傍線部6「轍」の読みとして最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **21**。

① ど じ

② た たら

③ あ と

④ て つ

⑤ せ

問十 傍線部7「強固なゲマインシャフト的社会」とは、どのような社会か。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **22**。

- ① 地域文化の交差、融合によってより広く統合された社会
- ② 時代、民族、地域環境、社会、素材等が有機的に結ばれている社会
- ③ 暖かみのある人間性を重視し、原始の時代に回帰しようとする社会
- ④ 民族の伝統が凝結した民芸を通して、時代、国境を越えて結ばれた社会
- ⑤ 創造のために伝統を意識することで、健全な精神で結ばれた社会

問十一 この文章の内容と合致するものを一つ、次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **23**。

- ① 機械時代は人口や生産を制御することで、文化史上かつてない繁栄をみた。
- ② 今日のデザインはすべて人の購買意欲を刺激するために、見せびらかしの媚を売るものである。
- ③ 近代化にともなって人口が増えたために、質より量の機械生産に転換された。
- ④ デザインの性格には、その製品が生まれた社会の性格よりデザイナーの個性が反映される。
- ⑤ 伝統の美を継承しようとしたジャポニカ調には似て非なるわざとらしさがある。

三 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

ヨーロッパ大学史のなかで学問の自由を考える際にまず取りあげなければならないのは、大学自治の起源としての中世大学の世俗権力および教会権力からの独立についてです。中世の大学は、学生と教師それぞれのギルド的な組合、^{*}社団として誕生し、世俗・宗教両権力との巧みな位置取りによって特権を獲得してきました。こうした中世の社団的自治を大学自治の起源とみなす考え方はいまでも強くありますが、注意しておかなくてはならないのは、¹ここでいう自治は後の学問の自由に直接つながるものではないということです。ルネサンスから^{*}一七世紀科学革命以前と以降とでは学問についての考え方がまったく異なっており、未知のなかに真理を探究する自由で創造的な営みとしての学問という考え方は、大学成立からはるか後に、大学の外部で育ってきたものなのです。ただ、社団としての大学という組織原理とその特権は、その後の大学のあり方を永く規定しました。ヨーロッパの大学はその後、宗教改革にともなう宗派化とよばれる改革や性格の変化を経て、大きく姿を変えていきました。なかでも重要だったのは、近世の啓蒙絶対主義君主による新構想大学の創設です。主権国家体制の成立と並行して、大学は国家や君主への **A** を強めたのです。よく知られているのは、一七世紀末のブランデンブルク辺境伯領(後のプロイセン王国)のハレ大学、一八世紀中葉にハノーファー選帝侯(侯はイギリス国王を兼ねていました)によって設けられたゲッティンゲン大学といったドイツの大学です。ドイツの著名な哲学者であるライプニッツ(一六四六―一七一六)も関与したサンクト・ペテルブルグ科学アカデミー付属大学やモスクワ大学の創設も、これにつけ加えることが可能です。特にゲッティンゲン大学では、一七世紀科学改革と哲学的認識論の展開に基づく学問観の刷新に対応した大学組織論が追求され、ゼミナールなどの新しい授業形式、大学図書館や天文台などの施設設備が考案されました。また、²大学教授の研究・教育上の自由の保障も萌芽的に図られています。ここで重要なことは、この革新が、ルイ一四世のヴェルサイユ宮殿を模して各地に作られた壮麗な宮殿建築と同一次元の、**B** の栄光と威信のためのものだったということです。また、大学教授団が、**B** に仕える特権的官吏集団の一角だったことも想起しておかなくてはなりません。学者や文士と官僚は重なりあっていたのです。私自身が検討した事例で

は、ライプニッツはドイツ各地の宮廷に官僚として二股三股かけて仕えただけでなく、たとえばロシアのピョートル大帝にも相当の阿諛^{あご}ツイショウぶりを發揮していました。七年戦争（一七五六〜六三年）の時期にロシアに占領されたケーニヒスベルクで、ロシアの女帝エリザヴェータに教授昇進を願ひ出たカントの態度も、嚴格主義的な彼の道徳説を想起するならば、あまり褒められたものではありません。それはともかく、啓蒙絶対主義期以来ドイツでは、国家による「营造物」として大学を捉える大学観が支配的になっていきました。学問の自由とは、国家营造物としての大学と特権的集団としての大学教授に認められた自由に他ならなかったのです。こうしてヨーロッパの大学は、中世以来の社団としての性格と、近世的な国家营造物としてのそれとを組み合わせた、複雑な性格をとるようになりました。

このような一八世紀の展開は、ベルリン大学の創設（一八一〇年）とも深く関わっていました。ベルリン大学創設はこれまで永く、^{*}フンボルト理念に立って大学の自治と学問の自由を原理的に確立させた画期として理解されてきました。しかし、最近ではこうした見方自体が相対化されてきています。啓蒙絶対主義改革から一九世紀前半にいたる相当長期の時間のなかで徐々に形成されてきた大学のあり方についての合意が、⁴二〇世紀初頭にフンボルト理念として発見されたのだと考えられるようになってきたのです。もつと重要なことは、フンボルト（一七六七〜一八三五）やカント（一七二四〜一八〇四）らによる学問の自由を掲げた大学の理念は、文化国家と呼ばれる国家像と表裏一体だったということです。彼らによれば、国家に制約されない自由な思索に基づく学問の発展とそれを前提にした自由な大学教育こそが、いわば予定調和的に国家の発展をもたらすのであり、それゆえ大⁵学への国家の介入は不要だということです。この議論では、国家と学問や教育との緊張関係は原理的に排除されています。このような大学論の性格を考える際に、大学における官僚養成機能の強まりと官房学と呼ばれる統治のための学の発展とが手を携えて進んだことは示唆的です。カントの大学論では、哲学部には国家介入をいっさい認めないのに、法学部や医学部については口出しが当然視されていたことも言い添えておきましょう。

以上はプロイセンを中心としたドイツ型の展開ですが、そのおとなりのハプスブルク帝国では、大学教育は固定カリキュラムに沿うべきものとされていて、大学教授による教育の自由はそもそも想定外でした。フランスでは、革命期からナポレオン期に

かけて大学は全廃されてしまい、かわりに設けられたのはグランゼコールと呼ばれる超エリート的で中央集権的な高等専門学校の体制であり、およそ大学の体をなさないファキュルテとよばれる単科の講義のための機関でした。なお、一九世紀のフランスの文脈で教育の自由として語られるのは、近世に教育を牛耳っていたイエズス会などの教団による私立教育機関の復活であったことも指摘しておかなければなりません。このように、ベルリン大学が創設されたからといって、全ヨーロッパ規模で学問の自由が原理的に確立させられたというわけではありません。

もう一点重要なことは、大学教授団と大学生とは、ドイツでは教養市民層と呼ばれる高度な教養を備えた知的な中産階級上層という特定の階層集団の中核をなしている、大学は、近世までの身分的階層構造にかわって、Cに基づく支配的集団を再生産する場だったという事実です。⁶近代市民社会とは、財産の有無以上に学識と教育によって正統化された社会的分断を階級Ⅱ階層構造の本質とする社会なのです。その意味で学問の自由は、引き続きある種の階級特権としての性格をはらんでいます。

さて、文化国家説に基づく学問の自由と国家的発展との予定調和という信念にもかかわらず、一九世紀前半のヨーロッパ、特にドイツにおける大学史の展開はこの信念を裏切るものでした。ナポレオン戦争後の秩序化と安定をはかったウィーン体制のもとで復古主義が強まると、大学のなかで育ちつつあったナシヨナリズムやリベリズムの政治思潮との緊張をもたらしました。ブルシエンシャフトと呼ばれる自由主義的な学生団体・運動への弾圧事件、自由主義的憲法を擁護するゲッティンゲン大学教授らの免職事件などが特に有名です。同時期にロシアでは、生まれたばかりの大学に存廃の危機が生じています。一八世紀末の分割後のポーランド貴族によるナシヨナリズムの拠点になったロシア帝国のヴィルノ大学は、一八三〇年のフランス七月革命に触発されたポーランド蜂起を機に廃止されてしまいました。国家営造物としての大学の前にDは、存廃さえやすやすと決めることのできる絶対的権力として屹立したのです。ウィーン体制脱却が目指されるなかで、一方で自由主義やナシヨナリズムの運動の高揚と、他方での文化国家説的な大学論・陶冶論の継承・発展とが相俟^まって、一八四八年革命のさなかに起草されたフランクフルト憲法案に学問の自由の条項が盛り込まれ、これが一八五〇年プロイセン憲法にも継承されました。特権として

の学問の自由は、現実の熾烈な政治経験を通じて鍛えあげられ、憲法規範化されたというわけなのです。

(橋本伸也「大学と国家」による)

(注)

* 社団≡国家から一定の独立性と特権とを認められた団体。同業者団体であるギルドはその一種。

* 一七世紀科学革命≡イギリスの科学史家バターフィールドの提唱した説で、コペルニクスやニュートンなどの業績に代表される近代科学の成立を、近代より前の時代から近代を画する時代区分点と捉え、産業革命にならって科学革命と名づけたもの。

* フンボルト理念≡ベルリン大学創設に際し、基本構想を策定したフンボルトの提唱した教育理念。すでに解決済みの知識を教え、学ぶ大学の前段階の教育に対して、学問をいまだ完全には解決されていない問題として捉え、常に真理の解明をめざす研究の場と大学を位置づけ、研究は国家や社会など大学外部の干渉から自由である必要があるとする。

問一 傍線部「ここ」でいう自治は後の学問の自由に直接つながるものではない」とあるが、その理由の説明として最適なものを

次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 24。

- ① 学問の自由は、宗教改革後の新構想大学においてはじめて獲得されたものであったから
- ② 中世の大学における自治は、社団としての独立性や特権の保持を目的とするものであったから
- ③ 中世の大学は、世俗権力および宗教権力の影響から完全に自由であったわけではなかったから
- ④ 中世の大学において認められていた自治は、一九世紀前半にいったん廃止されてしまったから
- ⑤ 中世の大学は学生と教師それぞれのギルド的な組合・社団に分裂しており、一元的な自治ではなかったから

問二 空欄 A に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 25。

- ① 依存性 ② 影響力 ③ 指導力 ④ 独立性 ⑤ 発言力

問三 傍線部 2「大学教授の研究・教育上の自由の保障も萌芽的に図られています」とあるが、ここにいう「自由」とはどのようなものか。説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 26。

① 中世の大学における社団的自治を発展的に継承した研究・教育上の自由

② 国家营造物としての大学と官吏集団としての大学教授に特権として与えられた研究・教育上の自由

③ 一七世紀科学革命と哲学的認識論の展開に基づく最新の学問観に裏づけられた研究・教育上の自由

④ 今日の学問の自由に直接つながってゆくことになる初期の段階の大学の自治と研究・教育上の自由

⑤ 後にフンボルト理念として発見されることになる近代の大学のあり方のさきがけとなった研究・教育上の自由

問四 空欄 B に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 27。

① 大学

② 世俗権力

③ 君主と国家

④ 啓蒙絶対主義

⑤ ハノーファー選帝侯

問五 傍線部 3「ツイショウ」を漢字で表すとき、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 28。

- ① 追承 ② 追従 ③ 追笑 ④ 追頌 ⑤ 追賞

問六 傍線部4「二〇世紀初頭にフンボルト理念として発見されたのだ」とあるが、それはどのような意味か。説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 29。

① ベルリン大学創設に際してフンボルトの示した高等教育理念は、これに先行して著された哲学者カントの大学論とほぼ同趣の内容であったけれども、二〇世紀初頭の段階ではカントの大学論ははまだ一般に知られていなかったため、フンボルトの打ち立てた理念として世間に受け容れられてしまった教育史上の経緯をいう。

② ベルリン大学創設に際してフンボルトの示した高等教育理念は、その後、大学教育のあり方を規定する最も重要な理念としてドイツを超えて世界中に拡大していったが、二〇世紀の初頭になって改めてフンボルトの功績が認められるようになり、彼の功績を称えてフンボルト理念という名称が世界的に採用されるようになったことをいう。

③ ベルリン大学創設に際してフンボルトの示した高等教育理念は、実際には啓蒙絶対主義改革から一九世紀前半に至る過程で徐々に形成されてきた大学のあり方についての合意事項と理解すべきものであったが、フンボルトの策定した文書にそれを見出だした二〇世紀初頭の研究者が、フンボルトの創始した理念と考え紹介したことをいう。

④ ベルリン大学創設に際してフンボルトの示した高等教育理念は、必ずしもフンボルトの独創というわけではなかったが、啓蒙絶対主義改革以降、大学関係者たちによって長い時間をかけて蓄積されてきた大学のあり方に関する合意事項を体系化した功績は大きい。その点を踏まえて二〇世紀初頭にフンボルト理念と名づけられたことをいう。

⑤ ベルリン大学創設に際してフンボルトの示した高等教育理念は、大学関係者を除けば一般に承認されていたわけではなかったため、その後一世紀近く世間に知られずに埋もれていたが、二〇世紀初頭になって再び認められたことをいう。

問七 傍線部5「示唆的」とあるが、具体的には何を示唆するか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **30**。

① 大学という組織が、本質的に国家の運営を担う官僚養成を目的とするものであったこと
② ベルリン大学の創設が、大学の自治と学問の自由を原理的に確立させた画期であったこと
③ 自由な思索に基づく学問の発展と自由な大学教育こそが、予定調和的に国家の発展をもたらすこと
④ フンボルトやカントらの掲げる大学の理念は、文化国家と呼ばれる国家像と表裏一体であったこと
⑤ フンボルト理念が、実際には長期にわたる時間のなかで多くの人々によって形成されたものであったこと

問八 空欄 **C** に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **31**。

- ① 学問の自由 ② 社団的自治 ③ 知識と学歴 ④ 啓蒙絶対主義 ⑤ 主権国家体制

問九 傍線部6「近代市民社会」について、筆者はどのように考えているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **32**。

- ① 学問の自由の上に成り立つ文化的社会
② 中産階級上層を中核とする文化的社会
③ 学識と教育によって再編された平等な社会
④ 受けた教育の差によって分断される階級社会
⑤ 身分に関係なく、学識と教育が尊重される社会

問十 空欄 **D** に入る最適な語を、文中より抜き出して記せ。解答用紙(その2)を使用。







